



# WDIAI

Women Dental Academy for Implantology

集い、学び、日本の女性歯科臨床家たちをつなぐ。

## WDIAI 第19定例会・総会

### 抄録/講演プログラム

人生100年時代に対応できるインプラント治療を目指す  
～Minimally invasive, Low risk, High quality Implant treatment～

◎日時：2026年4月12日(日) 9:00～14:00

◎Zoomによるハイブリッド方式

(会場：ストロマン・ジャパン東京セミナールーム&オンライン)

## 第 19 回 WDAI 定例会プログラム 【2026/4/12】

- 09:00 開催の挨拶 WDAI 会長 渥美美穂子 先生
- 09:05 会員発表 1 座長：小林真理子先生（講演 15 分+QA5 分）  
井上絵理香 先生（神奈川歯科大学附属病院技工部 歯科技工士）  
演題「歯肉色再現におけるトランスルーセント陶材の有効な使い方」
- 09:25 会員発表 2 座長：小田由香里先生（講演 15 分+QA5 分）  
有村知子 先生（フリーランス（船越歯冠医院） 歯科衛生士）  
演題「インプラントメンテナンスにおける音波歯ブラシの活用」  
～さらなるライフワークの向上を目指して～
- 09:45 会員発表 3 座長：山口絵美先生（講演 15 分+QA5 分）  
甲田恭子 先生（ルミエールデンタルクリニック 歯科医師）  
演題「ライフステージの変化に伴う健康課題を有する長期症例の支援を通して」
- 10:05 休憩（10 分）
- 10:15 教育講演 座長：山口葉子先生（講演 40 分+QA10 分）  
小森由子 先生（こもり歯科医院 院長）  
演題「予防歯科に求められるインプラント治療」
- 11:05 休憩（20 分）（アース製薬株式会社 企業 PR）
- 11:25 特別講演 座長：渥美美穂子先生（講演 90 分+QA10 分）  
飯島俊一 先生（アイ・ティー・デンタルクリニック 理事長）  
演題「患者負担を最小限に、結果を最大化するインプラント治療」  
— 成功の鍵とその理論的背景—
- 13:05 WDAI 広報 広報担当 吉武博美 先生
- 13:15 閉会の挨拶 次期定例会実行委員長、本会準備委員長 小森由子 先生  
本会実行委員長 吉武博美 先生
- 13:20 終了
- 13:30 2025 年度 WDAI 総会も併せて開催させていただきます。（会員対象）

※講演順番、進行時間などが変更になる場合もございます。予めご了承くださいませ。



## WDAI 会長挨拶

### 渥美美穂子（歯科医師）

Mihoko Atsumi

医療法人社団堯舜会 MA デンタルクリニック 理事長

#### 【所属学会】

日本口腔インプラント学会指導医、専門医

日本補綴歯科学会指導医・専門医

神奈川歯科大学客員教授

日本歯科先端技術研究所理事

ITI フェロー

WDAI 会長

#### 第 19 回定例会開催によせて

春爛漫、フレッシュマンの笑顔がまぶしい季節です。

わが国では教育制度から春は卒業、入学、入社など新しい環境へと舵を切っていく季節です。

私ども WDAI も旧執行部からの世代交替わりを目指してきて、今回も無事、定例会開催に至りましたのも、大会長、実行委員長の吉武理事、小森理事を筆頭にした次世代理事各位の尽力の賜物、会長として心より感謝申し上げます。

女性初の高市総理が「働いて、働いて、働きます」と宣言し、これまで内に秘めていた様々なプランを表明し、国民は大きな期待をもって歴史的な支持をしたところです。今日ではまだその結果の是非は見えませんが、満を持しての船出に期待が高まるのもうなずけるところではあります。

私たち女性はライフワークバランスに悩むのはいつの時代も変わらないものの、それを承知しつつも日々頑張り続け社会で活躍している女性有志はたくさんおります。その貴重な知識、技術、体験を情報発信して、今まさにくじけそうになっているあなたにもあきらめないでと語り掛けたい。そんな女性のためにとこの WDAI を継続してまいりました。

今回も、インプラントロジーに携わるすべてのスタッフのキャリアアップを支援するという当会のコンセプトに則り、歯科医師のみにとどまらず、歯科衛生士、歯科技工士の発表を企画することができました。機軸をぶらすことなく継続し、さらなる若手にバトンを渡していけるよう全世代で協力していきましょう。半日のわずかな時間ではありますが、皆様と時間を共有し、また、明日の力となれますよう、ガラスの天井は本当に突き抜けたのか？次にくるのは「とりあえずやらせてみたけど、でも、ほら、だから女性ではダメなんだ」、...と。そんな時代ではないと私は強く信じています。「だから・・・」は、言わせないぞという気持ちで、皆さん一緒に頑張りましょう。



## 実行委員長挨拶

### 吉武博美（歯科医師）

Hiromi Yoshitake

医療法人伊東会 伊東歯科口腔病院 インプラント診療部長

#### 【所属学会】

日本口腔インプラント学会 専門医

日本歯科麻酔学会 代議員 専門医・認定医

日本障害者歯科学会 専門医

日本有病者歯科医療学会 理事 指導医・専門医

日本歯周病学会

日本歯科医療管理学会

(一社)歯科・口腔外科 ACLS 協会 理事

WDAI理事

WDAI 定例会も今回で 19 回目を開催することになりました。これもひとえに会員の皆様、また、ストローマンジャパンの皆さまのご支援のおかげです。心より感謝申し上げます。今回のテーマは「人生 100 年時代に対応できるインプラント治療を目指す」～Minimally invasive, Low risk, High quality Implant treatment～とさせていただきます。

人生 100 年時代、食べることが健康長寿の秘訣だという事が世間にも浸透してきております。その“食べる”を支える歯科医師として、インプラントロジストとして、国民に何ができるのか、今一度考えてみたいと思います。私達の持つ知識・技術を研ぎ澄ませ、それを国民の皆さまに提供し、健康寿命を延ばすことができれば、こんなにいい事はありません。インプラントの埋入・補綴はもちろん、その後の予知性を考慮し 100 年の人生に対応できる治療法を考えていきたいものです。日本国民の健康寿命のために皆さんと活発な意見交換をすることができると幸いです。

今回の特別講演は、飯島俊一先生に『患者負担を最小限に、結果を最大化するインプラント治療 — 成功の鍵とその理論的背景-』という講演をしていただく予定です。高齢社会の現在、ハイリスクの患者さんが増えている中で患者負担を最小限にすることは一番注目されていることと思います。大変興味深い講演です。教育講演では小森由子先生に「予防歯科に求められるインプラント治療」についてご講演をいただきます。会員発表として、歯科医師：甲田恭子先生「ライフステージの変化に伴う健康課題を有する長期症例の支援を通して」、歯科衛生士：有村知子先生「インプラントメンテナンスにおける音波ブラシの活用法」、歯科技工士：井上絵理香先生「歯肉色再現におけるトランスルーセント陶材の有効な使い方」を予定しています。いずれも大変興味深く、皆様の明日からの臨床の参考になるものと思われれます。さあ、皆さん、共に集い（会場でもオンラインでも！）共に学びましょう。



## 準備委員長挨拶

### 小森由子（歯科医師）

Yuko Komori

こもり歯科医院 院長

#### 【所属学会】

日本口腔インプラント学会 専門医

WDAI理事

この度、WDAI 第 19 回定例会・総会準備委員長をさせていただきます小森由子です。

WDAI は設立以来、歯科界におけるイノベーションを共に学び、歩んできました。現在、歯科界ではデジタル化への加速と予防へのパラダイムシフトが劇的に進んでいます。私自身も WDAI での学びを通じ、デジタル印象採得装置（口腔内スキャナー、IOS）の導入を決意した一人です。現在ではインプラント症例に欠かせないツールとなっており、その精度がもたらす臨床での有効性を日々実感しています。

今回のメインテーマは「人生 100 年時代に対応できるインプラント治療を目指す」です。

100 年という長い人生において、インプラントは単なる「欠損補綴」の手段ではありません。高齢期における咀嚼機能の維持や低栄養の防止、さらにはフレイル対策など、全身の健康を守り抜くための重要な基盤となります。本定例会では、デジタルを駆使した「安全・確実」な治療はもちろん、100 年という時間軸で患者さんに寄り添い続けるための「予防」と「インプラントの共生」について、皆様と深く学んでいきたいと考えています。

変化を恐れず、新しい技術を味方につけて、患者の豊かな人生を支える歯科医療の未来を共に学んでいきませんか。皆様のご参加を心よりお待ちしております。



## 特別講演

飯島俊一 先生（歯科医師）

Toshikazu Iijima

アイ・ティーデンタルクリニック 理事長

### 【経歴】

- 1978年 東京歯科大学歯学部 卒業
- 1983年 博士(補綴学)学位受領 (東京歯科大学)
- 1987年 袖ヶ浦歯科医院 開設
- 1991年 アイ・ティーデンタルクリニック 開設
- 2005年 東京歯科大学千葉病院口腔インプラント科 臨床教授

### 【所属学会】

- 東京歯科大学インプラント科 臨床教授
- 日本補綴歯科学会 指導医・専門医
- 日本口腔インプラント学会 指導医・専門医
- ITI シニアフェロー

---

## 「患者負担を最小限に、結果を最大化するインプラント治療」

### — 成功の鍵とその理論的背景 —

#### 【抄録】

インプラント治療は欠損補綴において高い成功率を示す治療法として広く普及している。しかし一方で、骨造成の拡大や外科的侵襲の増大、治療期間の長期化などにより患者負担が増加する傾向も見られる。また長期経過においてはインプラント周囲炎や周囲骨吸収などの生物学的合併症が問題となり、いかに長期安定を確保するかが重要な課題となっている。超高齢化社会を迎えた我が国においては、患者負担を可能な限り軽減しつつ長期に機能するインプラント治療の確立が求められている。

インプラント治療の長期成功には、骨結合のみならず、力学的安定、軟組織封鎖、細菌感染制御といった複数の要因が関与する。特にインプラント体と上部構造の接合部における微小動揺やマイクロギャップは、細菌侵入やチタン摩耗粉の発生を介して炎症反応を誘導し、インプラント周囲骨吸収の一因となる。そのため接合部の適合精度を高め、微小動揺を抑制する設計は長期成功において重要な要素と考えられる。

さらにインプラントと軟組織と界面においては、軟組織の封鎖の安定性が重要である。特に軟組織貫通部の形態は炎症の発生に影響を及ぼす要因と考えられる、過度に太い貫通部は軟組織の安定性を損ない細菌侵入のリスクを高める。そのため軟組織貫通部を細く設計し、軟組織付着を安定させることは炎症の発生を抑制する上で重要である。

また患者負担を軽減するためには、過度な骨造成や侵襲的外科処置を可能な限り回避し、生体治癒能力を最大限に活用した治療計画が求められる。本公演では、患者負担を最小限に抑えながら結果を最大化するインプラント治療の考え方について整理し、臨床的視点および力学的、生物学的背景を踏まえて考察する。



## 教育講演

### 小森由子（歯科医師）

Yuko Komori

こもり歯科医院 院長

#### 【所属学会】

日本口腔インプラント学会 専門医

WDAI理事

---

## 「予防歯科に求められるインプラント治療」

#### 【抄録】

人は「おいしく食べる」ことで心身の健康を維持し、人生を豊かに彩ります。人生 100 年時代を迎え、地域密着型歯科医院における予防歯科のニーズ（客観性・予見性・快適性）に基づき、私たち歯科医療従事者は、単に歯を修復することではなく、患者の生活を支援することにあります。本講演では、予防歯科のニーズの上に、治療の一つとしてインプラント治療を組み込み、患者の食生活に寄り添えるかを考察します。

歯の抜歯原因の約 18%を占める「歯の破折」に対し、抜歯直後からの「歯槽堤保存術（リッジリザベーション）」は、「失ってから大規模な手術で取り戻す」のではなく、「失わないように守る」予防的アプローチです。エビデンスに基づき、リッジリザベーションを行うことで、将来的なインプラント埋入時の追加骨造成の必要性を約 4 分の 1（48.1%から 11.5%）にまで低減させることが可能となります。日常臨床では遭遇頻度の高い感染抜歯窩に対しても、骨誘導再生療法（GBR）を併用することで安全かつ確実な骨増生を図っています。さらに、規格性ある口腔内写真と合わせて個々の患者の嗜好や咬合圧に応じたメンテナンスでのアプローチを実践しています。規格性ある口腔内写真と IOS によるデータは視覚的な提示によるモチベーション維持に寄与することだけでなく、メンテナンスやリカバリー時のバックアップとしての安全性が担保されます。

人生 100 年という長期的な予後を見据えた際、口腔を 1 単位と考えたブランクコントロール、ブラキシズムによる咬合高径の低下や上部構造の摩耗への対応といった診療所・診療所連携（診診連携）を含んだ歯科的メンテナンスは欠かせません。そしてこれからの時代、患者の全身状態を把握した上での多職種連携が不可欠です。デジタル技術の導入によって継続的な診療情報を蓄積・活用し、多職種連携することで、患者が一生涯自分の口で食事を楽しみ、豊かな QOL を維持できるよう、歯科医療がその人生に深く携わっていきると考えます。



## 会員発表 1

### 井上絵理香 先生（歯科技工士）

Erika Inoue

神奈川歯科大学歯学部臨床科学系歯科診療支援学講座

歯科技工学分野

---

## 「歯肉色の色調再現性向上に関する検討」

### —ステイン材を用いた再現性向上のための技術的提案—

#### 【抄録】

I 目的：インプラント上部構造における歯肉形態および色調の再現は、審美的回復の観点から重要である。しかし、歯槽骨吸収が著しい症例では前処置が制限され、歯冠歯根長比の不均衡や過長な歯冠形態が生じることがある。これに対し歯肉色材料を付与する方法が選択されるが、歯肉色ステインの色調再現の難しさから十分に活用されているとは言い難い。本研究の目的は、限られた材料でその特性を最大限に活かし、再現性と簡便性を両立したステップを確立することである。

II 方法の概要：歯肉色ステインを用い、色調再現性と操作性の向上を目的としたステイン塗布の作業を検討した。色層構成、焼成回数、ステイン付与のタイミングを変化させ、作業工程を段階化・標準化した。各ステップにおける発色傾向と質感変化を評価した。その結果、特定の順序に基づくシンプルな工程に集約することで、色調確認が困難とされる陶材においても、安定した審美性を得られることを確認した。

III 考察および結論：歯肉色ステインは、レジン系のステインと比較し使用材料に限りがあり、色調構築に関する体系的指針も限られていることから、臨床において十分に活用されているとは言い難い。しかし本検討により、色層構成およびステイン付与の工程を整理し段階化することで、経験に過度に依存することなく、再現性の高い歯肉色表現が可能となることが示された。

さらに、ジルコニアは金属やレジン材料と比較してブランク付着が少なく、付着後も除去しやすい特性を有する。歯冠部のみならず歯肉部にもこれらの材料を応用することは、審美性の回復に加え、長期的な口腔内環境の安定にも寄与する可能性がある。近年、CAD/CAM の普及により形態再現は効率化しているが、歯肉色の微細な色調表現は依然として手技の重要性が高い領域である。本報告で提示した作業方法は、歯肉色陶材の有効活用を促す一助となり、限られた臨床条件下における審美的ならびに機能的回復の選択肢を広げるものと考えられる。



## 会員発表 2

### 有村知子 先生（歯科衛生士）

Tomoko Arimura

フリーランス（船越歯科医院）

#### 【経歴】

1989年 福岡歯科大学付属歯科衛生専門学校卒業

1993年～ 船越歯科医院勤務（福岡市）

2020年 フリーランス転向

#### 【所属学会】

ITI メンバー

---

## 「インプラントメンテナンスにおける音波ブラシの活用」

### —さらなるライフワークの向上をめざして—

#### 【抄録】

I. 目的： 情報化社会の進展に伴い、患者自身がインターネットや家電量販店などで好みの電動歯ブラシを購入するケースが増えている。しかし実際には、電動歯ブラシの種類や使用目的・使い方を十分に理解しないまま使用しているのが現状である。本発表では、リスク因子を有するインプラントおよび歯周治療後のメンテナンス患者に対して音波ブラシを用いたセルフケア指導を行い、効果的に活用するための指導のポイント・コツについて報告する。

II. 症例の概要： 胃全摘既往・高齢・難聴などのリスク因子を有する患者に対し、歯周治療およびインプラント治療後のリコール管理を行った。患者自身の努力は認められたものの、手用歯ブラシのみでは十分なプラークコントロールが困難であったため、音波ブラシの導入を提案し、セルフケアへの活用を指導した。

III. 結果： 音波ブラシ導入後多少のプラークは残るものの、歯肉に著明な炎症は認められず、安定したセルフケアの継続が可能となった。さらに健康的な食生活への改善がみられ、リスク因子を抱えながらもライフワークの充実につながった。家族も穏やかに生活できるようになり、患者のライフワーク向上に寄与したと考えられた。

IV. 考察および結論： 高齢や既往歴、難聴といった背景を有する患者では、従来のブラッシング指導のみでは十分な清掃効果が得られにくい。本症例では音波ブラシの導入と継続的な個別指導により、清掃効率の向上とセルフケア行動の定着が図られた。使用状況の確認にとどまらず、操作性や理解度を評価しながら支援したことが、モチベーションの維持と口腔内の安定に寄与したと考えられる。歯科衛生士が患者背景を総合的に評価し、個々の患者に適した歯周治療とメンテナンスを提供することが、健康増進およびライフワークの向上につながると考えられた。また、さらにメンテナンスの重要性を再確認する事が出来た。



### 会員発表 3

#### 甲田恭子 先生（歯科医師）

Kyoko Kouda

医療法人健甲会 ルミエールデンタルクリニック 理事長

#### 【略歴】

- 1989年 福岡県立九州歯科大学卒業
- 1989年 東北大学歯学部附属病院歯科・研修医
- 1991年 東北大学歯学部歯科保存学第一講座 医員
- 1992年 東北大学歯学部予防歯科学講座 文部教官助手
- 2003年 東北大学大学院歯学研究科口腔保健発育学講座  
予防歯科学分野 助教（名称変更）
- 2013年 ルミエールデンタルクリニック開業 院長
- 2024年 医療法人健甲会 理事長

#### 【所属学会】

- 日本臨床歯周病学会（認定医 歯周・インプラント認定医）
- 日本歯周病学会（指導医・専門医）
- 日本歯科保存学会（指導医・専門医）
- 日本口腔衛生学会（専門医）
- WDAI
- ITI

---

# 「ライフステージの変化に伴う健康課題を有する長期症例の支援を通してインプラントによる補綴治療を行った 1 症例」

【抄録】

## I. 緒言

近年、健康寿命の延伸に伴い、口腔機能の維持・管理の重要性が高まっている。特に女性は社会進出により活動的な生活を送る一方、家庭や仕事、さらに疾病の影響により継続的な歯科治療が困難となる場合がある。そのため、長期的視点に立った柔軟な治療計画の立案が求められる。

本症例では、歯の破折により咬合崩壊を呈した患者に対し、歯周治療、部分矯正治療、審美補綴治療およびインプラント治療を組み合わせた包括的治療を行った。治療は仕事および全身疾患の影響により中断を余儀なくされ長期に及んだが、最終的に咬合機能および審美性の回復が得られたため報告する。

## II. 症例の概要

患者：58 歳，女性

主訴：前歯部補綴物脱離

既往歴：高血圧

診断名：慢性歯周炎 Stage IV Grade C, Eichner 分類 B3, 慢性根尖性歯周炎, う蝕

治療経過：

破折歯を抜歯後骨再生誘導法（GBR）を施行した。歯周基本治療と並行して上下顎前歯部に暫間補綴装置を装着し、臼歯部は治療用義歯により咬合を回復した。その後、上顎左右側臼歯部から前歯部および #44 にインプラントを埋入し、補綴的にオーバージェットを改善するとともに、全顎プロビジョナルレストレーションにて咬合調整を行った。

治療途中でパーキンソン症候群（以下 PD）と診断され一時治療を中断した。退院後に治療を再開し、部分矯正治療後に最終補綴へ移行した。現在はリテーナーを使用し、歯周病安定期治療およびインプラントメンテナンスを継続している。

## III. 考察および結論

多数歯の破折や補綴物脱離が認められ、PD に伴うブラキシズムなどの口腔機能異常の関与が示唆された。また、臼歯部欠損の長期放置により咬合高径が著しく低下し、義歯治療は困難であった。インプラントによる咬合支持の再建により安定した咬合が得られ、口腔機能の回復が達成された。

インプラントを含む包括的治療は長期に及ぶため、患者の全身状態や生活環境の変化に配慮した継続的管理が重要である。

## VI. 文献

1) B Ella. Prevalence of temporomandibular disorders in subjects affected by Parkinson disease: A systematic review and metanalysis. J Oral Rehabil. 2023;50:877-885

2) 飯田良平. パーキンソン病の口腔機能管理 日補綴会誌 2020;12:316-321



